

(様式 1)

令和 6 年度 鶴岡市介護保険運営協議会会議概要書

○日 時 令和 6 年 8 月 5 日 (月) 午後 1 時 00 分～午後 2 時 00 分

○会 場 鶴岡市役所 6 階 大会議室

○出席委員 (敬称略)

日向常浩、佐藤豊、屋代高志、福原晶子、本間済、吉野進、土岐喜久、
鈴木淳一、佐藤こず恵、伊藤匡二、難波優子、渡部はつせ

○欠席委員 無し

○市側出席者 健康福祉部長 佐藤繁義、健康福祉部参事(兼) 長寿介護課長 加藤早苗、
地域包括ケア推進課長 齋藤芳、
長寿介護課課長補佐 上林一志、同課主査 今野小巻、加藤千鶴、
同課高齢者支援専門員 佐藤陽二、同課専門員 茂木政信、
地域包括ケア推進課課長補佐 佐藤正、同課主査 川村佳代子、
伊藤佳奈子、同課専門員 佐藤淳子、高橋宏知、同課主事 加藤千恵

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 無し

○次 第 鶴岡市介護保険運営協議会

1. 開会
2. 挨拶 健康福祉部長
3. 委員・事務局紹介
4. 会長・副会長選任
5. 報告・協議

【R5 年度の報告】

(1) 介護保険の実施状況について

- ① 介護保険の運営状況について
- ② 介護保険施設等の入所申込状況について
- ③ 認定の迅速化に向けた取組について

(2) 地域支援事業の実施状況について

- ① 介護予防・日常生活支援総合事業について
- ② 生活支援体制整備事業について
- ③ 在宅医療・介護連携推進事業について
- ④ 認知症総合支援事業について

(3) 第 8 期介護保険事業計画における自立支援・重度化防止等への取組みの
進捗状況について

(4) 令和 6 年度保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金
の結果について

【R6 年度の取組について】

(1) 鶴岡市高齢者福祉計画・第 9 期介護保険事業計画の施策体系と令和 6 年度
の取組について

6. その他
7. 閉会

○報告・質疑・意見交換内容

5.【報告・協議】

【R5年度の報告】

(1) 介護保険の実施状況について（説明：事務局）

- ①介護保険の運営状況について【資料1-①】
- ②介護保険施設等の入所申込状況について【資料1-②】
- ③認定の迅速化に向けた取組について【資料1-③】

【(1)についての質問・意見・回答】

[委員]

資料1-①の7ページに今後の動向において施設入所の需要が高いとあり、一方で資料1-②の2ページでは特養と老健の入所申込者は減少傾向が顕著といえるかなと思われます。これらを総合して、今後の施設整備に係る鶴岡市のご意向やお考えをお伺いしたいと思います。

[事務局]

入所申込者が減少傾向にある理由については、入所、入居ニーズに対して特養と老健以外にも、有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅やグループホームなどが受け皿として機能していることから、申込者が減少傾向になっているものと考えています。

第9期介護保険事業計画における施設サービスの整備計画としましては、短期入所生活介護から介護老人福祉施設への転換による11床の増床を計画しています。在宅での生活を希望する高齢者が多い一方で、重度の要介護認定者などは施設入所のニーズが依然と高いため、一定の水準を確保するものです。

また、介護医療院につきましては、近隣の地域の施設整備による利用を見込んでいます。

なお、第10期計画以降については、今後検討を進めます。

(2) 地域支援事業の実施状況について（説明：事務局）

- ①介護予防・日常生活支援総合事業について【資料2-①】
- ②生活支援体制整備事業について【資料2-②】
- ③在宅医療・介護連携推進事業について【資料2-③】
- ④認知症総合支援事業について【資料2-④】

【(2)についての質問・意見・回答】

[A委員]

担い手研修について、研修修了者が減少傾向で、R4・R5年度は目標値に届いていないようでした。介護保険事業の目標達成のためには、担い手の育成は重要な役割を占めると思っています。

これまでも、研修終了者にアンケートを取ったり、マッチングを行って活躍に結び付けたりといった工夫をされているようですが、そもそも研修受講者を増やすための具体的な取組みとして、今年度既に行ったことや今後考えていることなどはありますか。

[事務局]

令和6年度の担い手養成研修会では、受講生を増やす具体的な取組みとして、まず実施内容をより明確にするためにチラシのデザイン変更を行いました。また、受講後の活動をイメージしやすいように、市のホームページには、研修会の内容に加えて、これまでの研修修了者の取組みを掲載しています。

さらに、若い世代にも興味を持ってもらえるように、SNS等での周知や申込フォームによる受付を実施しています。

その結果として、令和6年度の第1回の担い手養成研修受講生が19名と、昨年度を上回る申込みがありましたので、一定の効果があったものと考えています。

(3) 第8期介護保険事業計画における自立支援・重度化防止等への取組みの進捗状況について
【資料3】 (説明：事務局)

【(3)についての質問・意見・回答】

特になし

(4) 令和6年度保険者機能強化推進交付金及び介護保険保険者努力支援交付金の結果について
【資料4】 (説明：事務局)

【(4)についての質問・意見・回答】

[議長]

鶴岡市は、介護保険事業が順調に行われているという認識がありましたが、この資料の結果を見て、特に、介護度が低い方、改善する可能性のある方の改善度が少ないと感じました。

この評価にあたって、認知症のあるなしをすべて一色端にはできないと思います。先ほど通所リハビリの利用者は改善度が高いという説明もありましたが、脳梗塞等による麻痺や大腿骨骨折などにはデイサービスや通所リハビリを利用することで改善が期待されます。しかし、認知症については改善があまり期待されないことから、改善度を同じように評価はできないと思います。

医師会のケアマネジャーにも聞いてみましたが、やはり衝撃的な結果だと話していました。ただ、行政も含めて、ケアマネジャーはケアプランの作成、ケアマネジメントを一生懸命やっています。やっちはいるけれども、条件が異なるいろんな方々を一色端にして統計を出すこと自体が私は無謀ではないかと思います。

鶴岡市では、施設入所よりも自宅で介護されている方々の割合が多いと思いますが、これは施設利用が多くなると結果は違ってくると思います。酒田市は比較的施設入所の割合が多いことから、鶴岡市と比較しても、結果が異なっています。

[委員]

1年後の状態の改善状況を見ると、維持が53.9%に対して長期で見ると15.2%と、かなり大きく下がってしまっているということで、短期的には大きな変動はないが4年という期間で見ると、変化なしに含まれる亡くなられる方が多いという前提を踏まえても、長期の予防にポイントがあるのかなというふうに、全体としては見たところです。そういった意味では、先ほどA委員がおっしゃられたような担い手の育成や活動の場が重要であると思います。

以前に拝見した調査で、11年間くらいはかなり長期にわたる追跡調査をした結果でも、11年間、週に1回以上趣味や運動の活動をした場合、介護費用っていう指標を使っていましたが、1人当たり約40~50万ぐらいの介護費用の縮減がありました。つまり、そのぐらいの介護予防効果があったということで、通いの活動や市民活動のサポートなど、そういったことが必要になってくると思います。

蛇足的ですが、資料のデータは試行的な調査で、まだ網羅的には行われていないと思いますが、男女の差がどうなのかなということを興味深く拝見しました。

長らく介護現場にいた肌感覚として、男性の社会的な参加となると、もともと健康志向が高い方は通所などに通いやすいですが、そうではなくて社会的活動にも出たくない方にどのような活動を提供していくきっかけを作るかということが重要だと思います。大阪府豊中市では、要介護になる前に男性が役割を感じて社会に出ていく取組みを行っていますので、性別を視野に入れた取組みも

重要であると考えます。

【R6年度の取組について】

- (1) 鶴岡市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の施策体系と令和6年度の取組について
【資料5】 (説明：事務局)

【(1)についての質問・意見・回答】

特になし

4.その他

特になし